

平成17年2月期 第三級海上特殊無線技士 試験問題

無線工学

1. 電波の伝わる速さは、音が大気中を伝わる速さよりも速い。
2. SSB方式に用いられる変調は、周波数変調である。
3. スピーチクラリファイヤつまみは、受信したSSB電波の明りょう度が悪いとき、聞きやすくするために使用する。
4. 浮動充電（フローティング）方式を用いると、負荷の変動に伴う電圧変動が大きい。
5. 船舶に用いる超短波帯の空中線は、使用する電波の波長のほぼ2分の1か4分の1の長さのものが多く。
6. 超短波帯では、送受信空中線を高くするほど通信のできる距離が延びる。
7. 容量が100 [Ah]（アンペア時）の充電済み蓄電池は、10 [A]の電流を10時間連続して使用できる。
8. 受信機の感度つまみは、主にスピーカから出る雑音を消すときに使用する。
9. 電離層は、地球から近い順にF層、E層、D層と呼ばれている。
10. 船舶に設置されるレーダーは、自船の周囲360度の範囲を探知できるよう、無指向性アンテナを使用する。